

ヘブライ人への手紙 11章1―3節、12章1―3節

●ある会社で新入社員が総務課長に抜擢されました。彼は大きな成果も挙げたが、同時に大きな失敗で始末書を書かされていたそうです。しかし社長は、失敗を恐れず行動し、失敗によって成長している人材こそが大切だと考えたそうです。誰でも失敗は避けたいと考えますが、時に失敗によって技術的、能力的に深められ、何よりも人間的に深められるという事があるように思います。

●聖書の民ヘブライ人(ユダヤ人)は優秀だとよく言われますが、あるユダヤ教のラビが「ユダヤ人は、人間は失敗するものだとの前提に立っている。ここが失敗を恐れる民族と異なるところだ。彼らは『失敗を恐れない民』である。失敗を恐れ、成功することだけを考える人間は、消しゴムのついていない鉛筆で設計図を描くようなものだ」人が満足を得る絵を書くのに大切なのは、ペンではなく消しゴムであり、試行錯誤、失敗をしてもそれを修正していく事が大切だと私たちは知らされるのです。

●ヘブライ人への手紙の11章1節に「信仰とは望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」とあります。この「望んでいる事」は自分の願望ではなく、「神が私たちに望んでおられる事」の意味であり、それを確信し行動して「本当にその通りだった」と証することが信仰の歩みだと言っています。

そして、続けてユダヤ人の偉大な先祖たちを紹介するのですが、彼らの全てが失敗を経験し、その失敗の只中で、神の赦しと憐れみを感じ、本当に神が望んでおられることに気づきを与えられて歩いていった人々だったのです。

あのイエス様の弟子のペトロも同じです。彼も失敗を繰り返し、十字架のイエス様を見捨てました。しかしその生涯を通してイエス様の赦しと愛に出会い、主の御旨に生き、神の働きを証する者とされていったのです。

●神の望まれる事がなかなか理解できない私たち、また理解して行動しようとしても失敗をしてしまう私たちですが、その都度イエス様の十字架の赦しに与り、さらに深い神の御旨を知らされて成長させていただけることを感謝します。イエス様というお方こそが完全な設計図を書く時に消しゴムを持っているような安心感を私たちに与える存在であり、そのキリストのゆえに常に前を向き、豊かでクリエイティブな働きをなすことができるのです。沢山の信仰の先達のように、常に神様が求めておられる御旨「ビジョン」を確かめつつ、失敗を恐れず、その実現のために励んでまいりましょう。